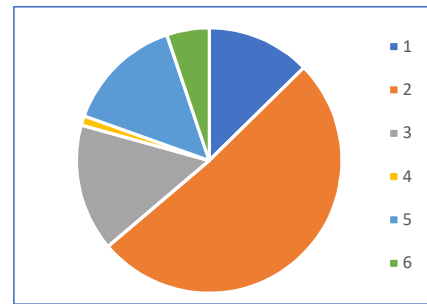


## 1. 連絡手段で思いつくものは？

回答数 174

(注) 1 択だったが複数回答もカウントした

	回答数	比率
①公衆電話	22	12.6%
②携帯・スマホで電話	89	51.1%
③携帯・スマホでメール	27	15.5%
④パソコンでメール	2	1.1%
⑤災害用伝言サービス・安否確認システム(※1)	25	14.4%
⑥TwitterやLINE等のSNS	9	5.2%
	174	100.0%

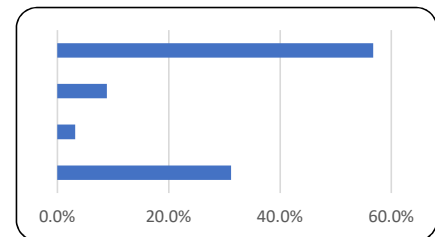


3分の2(66.6%)の回答者が携帯・スマホでの電話・メールを思いつくると回答、災害用伝言サービス・安否確認システム電話が15.5%、公衆電話が12.6%と続く、TwitterやLINE等のSNSが5.2%と少なかった。

## 2. 公衆電話は災害でもつながりやすい

回答者数 157

	回答者数	比率
①よく知っている	89	56.7%
②だいたい知っている	14	8.9%
③名前だけ知っている	5	3.2%
④知らない	49	31.2%
	157	100.0%

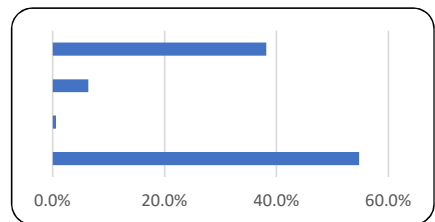


約3分の2(65.6%)の回答者が公衆電話は災害でもつながりやすいと認知している一方で、約3分の1(31.2%)が知らないと回答。

## 3. 公衆電話は停電時でも使える

回答者数 157

	回答者数	比率
①よく知っている	60	38.2%
②だいたい知っている	10	6.4%
③名前だけ知っている	1	0.6%
④知らない	86	54.8%
	157	100.0%

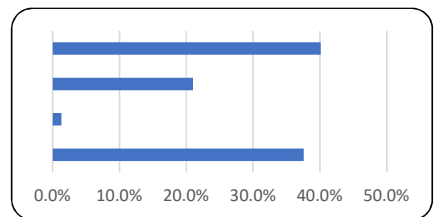


4割超え(44.6%)の回答者が公衆電話は停電時でも使えることを認知している一方で、5割超え(54.8%)の回答者が知らないと回答。

## 4. 公衆電話の設置場所の把握

回答者数 157

	回答者数	比率
①よく知っている	63	40.1%
②だいたい知っている	33	21.0%
③名前だけ知っている	2	1.3%
④知らない	59	37.6%
	157	100.0%

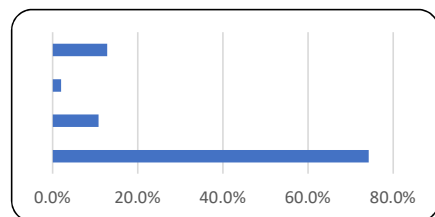


6割超え(61.1%)の回答者が公衆電話の設置場所を知っていると回答している一方で、4割弱(37.6%)の回答者が知らないと回答。

## 5. 災害時用公衆電話(※2)の認知の有無

回答者数 148

	回答者数	比率
①よく知っている	19	12.8%
②だいたい知っている	3	2.0%
③聞いたことがある	16	10.8%
④知らない	110	74.3%
	148	100.0%



7割超え(74.3%)の回答者が災害時用公衆電話を知らないと回答した。「よく知っている」、「だいたい知っている」を併せると1割を上回るが2割まで達しない結果(14.8%)だった。

## 6. 性別

	回答者数	157		
	回答者数		比率	
① 男性	70		44.6%	
② 女性	86		54.8%	
③ 不明	1		0.6%	
	157		100.0%	

女性(55%)が男性(45%)を10ポイント上回る。

## 7. 年齢構成

	回答者数	比率		回答者数	比率
① 小学生	3	1.7%	⑤ 40代	58	33.3%
② 10代	10	5.7%	⑥ 50代	14	8.0%
③ 20代	6	3.4%	⑦ 60代	30	17.2%
④ 30代	34	19.5%			

回答者は40代が最多、続いて30代が多く、併せて52.8%を占めた。

## 8. 備考

※1: 災害用伝言サービス・安否確認システム

災害用伝言ダイヤル171、Web171(災害用伝言板)、携帯電話とスマホ用の災害用伝言板や音声お届けサービス、J-anpi(安否情報まとめて検索)、Googleパーソンファインダ(安否情報)、勤務先や学校など専用の安否確認システム

※2: 災害時用公衆電話(=特設公衆電話)

大きな災害が起きた時に、避難所等(小学校・中学校など)に開設される公衆電話